

ダルク女性ハウス

DARC Women's House

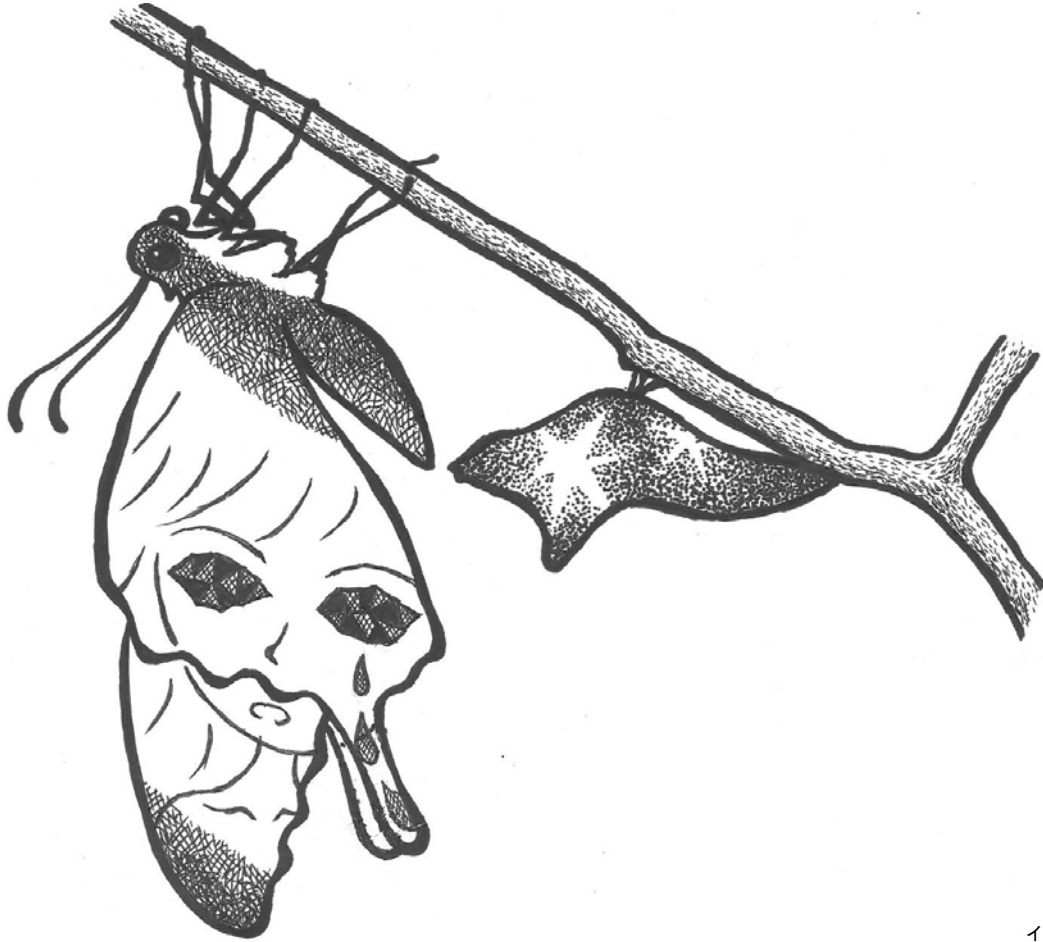


イラスト るね

■哲学者である國分功一郎さんが『中動態の世界 意志と責任の考古学』で小林秀雄賞を受賞されました。■

はるえ

10月6日新潮社主催の授賞式があり、私も招待されて参加してきました。

『中動態の世界』は、國分さんの中にかねてからあった「受動態の子供時代から能動態の大人へ」という図式への疑問が、私を含めたダルクのメンバーと出会ったところからどんどん発展して、5年の歳月を経て昇華していく過程をまとめられたものです。

その授賞式の中で加藤典洋さんの言葉に私は思わず号泣してしまいました。

加藤さんは「國分さんが本気で人のために書いてきた」「いま作家の中に『仲間のため』『人のため』に本気で書ける人は少ない中、國分さんはそれを本気でやってくれた」と話されました。「仲間のため」「人のため」という言葉を聞いて、どっと泣けてしまいました。

國分さんのように私たち依存症者を『しっかり意志を持ち責任ある主体になろう』とすればするほど悪化し苦しんでいる彼らは、受動態でも能動態でもない『中動態』という概念を膨らませ始めていた自分にとって他人事とは思えない存在」として理解し、描き切ってくださいました方は、これまでで初めてです。私たち自身が謎だと思っていたことが、哲学という思いもよらない側面から沢山理解できるようになりました。

本当に國分功一郎さん「有難うございました！」

昨年12月に入寮して10ヵ月が経ちました。

今、季節の変わり目でもあるのと、身体の調子を少しずつ感じるようになってきたおかげか、気分も体調も波があり、近頃毎日しんどいです。眠れなかったり、作業のプログラムに集中出来なかったり、些細なことに過敏になりやすいのですが、仲間やスタッフが見守って共感してくれるので、どうにか過ごせています。

10ヵ月を通して一番思い出になった出来事は、大阪コンベンションです。私自身、コンベンションへの参加は初めてだったのと、仲間と一緒に参加できたことで、とにかく疲れたけどものすごく楽しかったこと、何よりここに書ききれないほど現地でたくさんの仲間から感動をもらったことは、独りぼっちだった頃の自分には全く想像出来ない大切な思い出になりました。「あ、独りじゃないんだ」と思えたあの空間こそ本当にスピリチュアルだったと思います。

けれど、今も時々独りになりたくなれます。病気を使いたくなったり、自分の思うがままに生きていきたいと思ったり、生きることさえいやになったり。。。。。

そう思う度に今私は本当にギリギリの所で踏み止まっているんだなと実感します。

決して一人ではないからこそ今日の自分が在って、このニューズレターを書くことが出来ました。ここまで読んで下さってありがとうございました。



イラスト るね

■私の問題■

みわ

フリッカに通所して3年2ヶ月が経ちました。

使っていたころは、人の役に立つことで、自分の居場所を確認していました。人のことばかり優先していて、自分の意見なんて言ってきませんでした。言われたことをやる、頼まれたら断らないことで、「いい人」と思われたかったです。頼られることで、必要とされてるんだって思っていました。男の人に対しても、相手が望んでいると思うことを、先回りしてやっていました。尽くす女=「いい女」だと思っていたし、振り回されても耐える、そして乗り越える自分にすごく酔っていたし、それが自信にもなっていました。私、こんなに尽くしているんだから、ここに居ても良いでしょ、って確認もしてたし、居なくなったら困るって思われる人になりたかったです。

繋がってからも、頼られて、どうにかしてあげなきゃと思い、周りの仲間に嘘をつき黙っていたことがありました。そのことで、仲間を傷つけ裏切ってしまったことがありました。昔と変わらない自

分がそこには居ました。そんなときでも、仲間は話を聞いてくれて、分かち合ってくれ、本音で付き合ってくれてる人たちが私の周りには沢山居ることに気付かせてもらいました。

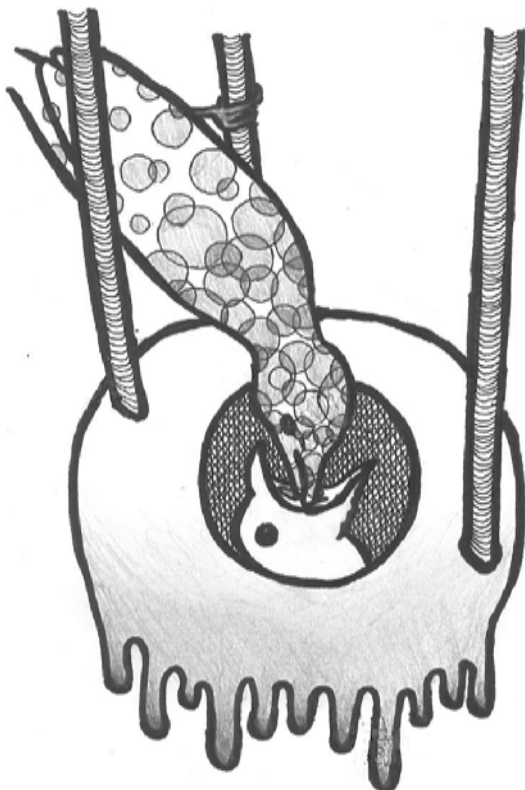
「自分の事一番でいいよ。自分の事だけでいいんだよ」その時言ってもらった言葉です。

私はこう思う、とか、私はこうしたい、って自分発信してもいいんだよ、自分の事を第一に考えてもいいんだよって言われても、間違っていたらどうしようとか、自分に自信がないし、自分の意見なんて言ったら嫌われるんじゃないかって怖かったです。でも、先行く仲間の経験を聞いたり、仲間と分かち合ってるうちに、私も、人に寄り添うのではなく自分を持ちたい、自分の考えを言えるようになりたいって思いました。少しずつだけど、私はこう思うけど、どう思う？って聞けるようになってきたと思います。だけど、自分の気持ちを伝えるのには、すごくエネルギーが必要で、「ま、いいか」ってなっちゃうこともあるけど、少しずつ、伝えていけたらいいなって思います。

話すことで、いろんな人に自分の話をして、自分を知ってもらいたいって思うし、自分の変なところを自分で確認したいとも思います。私は直ぐに、私は大丈夫、ちゃんとやってます、みたいなフリするのが得意で、自分の話を小出しにしていかないと、どんどんズレていってしまうことも気が付きました。彼との付き合いでも、病氣と病氣が噛み合っちゃって、気が付くと、相手が第一になっていて、自分を見失っていたこともありました。彼とのことを話しているうちに、お母さんみたいになってるって思ったこともありました。彼との付き合いの中でも、沢山の私の問題も見えてきたような気がします。恥ずかしいけど、スタッフに相談したり、ミーティングで話して自分の問題を確認し、気付かせてもらってます。今も、わかっちゃいるけどやめられないんだよなあ〜って思いながら、自分の病氣と付き合っている感じです。でも、始めの頃に比べれば、病氣が出る事に、少し早く気が付けるようになったと思います。

私には、話せる人がたくさんできました。沢山の仲間、スタッフ、主治医、いろんな人たちに囲まれている感じ、1人じゃないんだって感じられることが一番嬉しいことです。私にはフリッカ、スタッフ、仲間が必要です。これからも通い続け、自分の問題と向き合っていきたいと思います。

10月19日から仕事を始めました。



仕事をするにしても、どんな仕事があるのかも知らなかったし、自分には出来ないと思ってた。だけど、仲間をみて、私にもできるかもしれない、やってみようかな？って思えることがみつかりました。介護の仕事です。資格を取りに、今年の2月から学校に通い、介護福祉初任者研修を終了しました。履歴書の職歴が書けない私、職歴の空白を聞かれても困らないように、一緒に考えてくれたり、はじめは短時間で、ちょっとずつ増やしていったらいいよってアドバイスもらったりしながら、週2日、1日4時間でも働ける場所を見つけることができました。新しいことをはじめの怖さだったり、不安もあるけど、ゆっくりやっていきたいと思います。長い時間かかりましたが、小さな一歩を踏み出せました。これからはあせらずに、仲間の中で回復していきたいと思います。

<B型日記>

バザーの季節がやってきました。就労継続支援B型「リーブル工房」では、ご寄附いただいた着物や反物をリメイクして、商品を作っています。10月から12月にかけては、バザー販売の機会が多く本当に感謝しています。お客さまから、「こんな商品が欲しい」とか、「ここは、少し工夫したら？」など、率直なご意見を頂ける貴重な場にもなっています。先日販売した会場では、「重要書類を持ち歩くので、ファスナー付きのトートが欲しい」とのご要望があり、早速みんなでチャレンジしています。12月7日（木）には、東京都北区役所での販売を行いますので、お近くの方は、お立ち寄りいただけると嬉しいです。

献金・献品ありがとうございました！ (2017・4~9)

日本キリスト教婦人矯風会 浅井ルミ 大森伊織 まつしま病院 栗原節子 鈴木幸子
原宿カウンセリングセンター 佐々木紀江 二河田日和 細川幸子 フェルメール
ひがメンタルクリニック 坂本明美 宗形博子 相澤靖雄 萌クリニック 米沢宏
南保輔 福田順子 山田恵美 小林信子 タケウチアケミ 赤岩雪江 黒川奈菜子
牧野滋子 森下慎一 上妻英正 大智院 市場恵子 (株)ユアサ 清水妙子
藤島哲子 池田ひかり 細川幸子 堀田美加代 本田万知子 小宮菜月 下田正枝
大川さち子 山添雅弘
匿名希望 (敬省略 順不同)

★今後ともよろしく願いいたします。

- 一口 2,000円 (一口以上、何口でも可)
- 郵便振替口座 00140-2-591609
他金融機関からの振込用口座番号
店番(019) 当座 0591609
- NPO 法人ダルク女性ハウス

賛助会員募集

■編集後記■

さとう

中秋の名月を、ああ美しいと見上げ、秋の訪れを感じたのも束の間。あっという間に冬本番の気候になってしまいました。こんなに一気に季節が進むと、訳の分からない焦りを感じます。

今回、るねちゃんが素敵なイラストを描いてくれましたが、この蝶やカエルさんのようにしっかりと何かにつかまって、時代の波や変化の波にのまれないようにしていきたいものです。11月には高尾山に登る予定です。紅葉と抜けるような青空を見上げ、私がいまここにいることをしっかり感じてきたいと思います。